

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	デイクラステーションカルテット ぐさぐさ			
○保護者評価実施期間	令和6年 12月2日		～	令和6年12月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数)	17
○従業員評価実施期間	令和6年12月9日		～	令和6年12月28日
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)	3
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月27日			

○ 分析結果

事業所の強み (※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1 医療的ケアが多い子どもに対しても医療職と福祉職が連携し安全かつ個別性を踏まえたケアを行っている	新しいケアが必要となったときや、状態に応じてケアが変更となる時など、観察のポイントや留意点を根拠も含めてその場で共有できるように努めている。 個別支援計画の更新の際、児発管のみでなく関わる職員ができるだけ参加して、現状の確認と共有を図り、評価を行い今後の目標を作成している。	非常勤職員に医療的ケアの方法や、個別の留意点がわかりやすいよう写真を用いた書面を作成している ただ医療的ケアを行うのではなく、医療的ケアも療育の場面の一つと捉え、発達に応じた声掛けや説明を行い、同意や協力を得る等、子どもの主体性にも留意して行えるよう努めている。
2 子どもたちそれぞれに応じた支援を提供している	・多職種間で密な連携を取り合っている ・日頃から子どもたちの現状や対応について情報共有し、意見を出し合っている	日々の活動における目標（ねらい）の個別化・明確化及び非常勤職員への取組方法の工夫
3		

事業所の弱み (※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1 長期的な視点に立った継続的な療育支援の徹底が難しい	人手不足により継続的に子どもを観ている（慣れている）職員に限られる。 医療的ケアも多く安全にもれなく実施することに終了してしまいがち。	活動におけるそれぞれの子どもにとっての目標（ねらい）の明確化と非常勤職員への周知方法の工夫 医療的ケアも療育の一環にあるという意識を改めて徹底する
2 地域との交流機会が少ない（散歩で挨拶をしたり、遊具を借り合う等はあるか）	基本的には放課後の利用のため、時間が限られる	ニーズに応じて必要な機会（自治体・行政など）と調整を検討する
3 日頃、事業所内で実施されている防災訓練や事故防止・感染対策などの対応が知られていない	説明・周知不足	定期的にお便り等にけい、さいするなどで周知をはかる

19	子どもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されている とともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周 知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されています か。	12	3	1		
20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると 思いますか。	15	1			
21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制 等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信さ れていますか。	16				
22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	15		1		
23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニユア ル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていま すか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	13	2	1		
24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓 練が行われていますか。	15	1			
25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、 安全の確保が十分に行われた上で支障が行われていると思いますか。	13	1	2		
26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事 故が発生した際の状態等について説明がされていると思いますか。	14		2		
27	子どもは安心感をもって通所していますか。	16				
28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	15		1	・めろでい職員・事がお迎えにくるとお すまし顔ですが、楽しみにしています。 ・ピッポと鳴るとっこりです	
29	事業所の支度には満足していますか。	15	1		・もう少し日数入りたいです。 ・季節の行事や製作・活動いっち工夫 して子どもたちを楽しませてくれしていま す。	利用希望が多く100%ご希望通りに利用 ができていない状況です。申し訳ござい ません。

公表
保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	ダイクアステーションカルテット
------	-----------------

公表日 令和7年2月12日

利用児童数 令和6年11月1日

回収数 17名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	16	1				
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	12	2		3		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構成化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	15	2				
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	16	1			・少し暗く感じる、お部屋を明るくできたらありがたい。 ・もう少し明るくても良いかなと思う時もあります。	ベットの覆っている子どもや、車椅子に乗っていてほとんど天井を覆っている子どもが多いため、照明を弱めに行っていることが多いかもしれません。製作等活動内容により明るさを調整していきます。
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	16	1				
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	17					
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	16	1				
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスへの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	15	1		1		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	17					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	15	2				
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	4	2	5	6	・公園などはあるのか ・不要だと思う	放課後の時間は短時間ではなかなか交流は難しいです。また、感染症が流行っている時期は交流は行いません。
保護者 への 説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用費負担等について丁寧な説明がありましたか。	17					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	17					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	9	1	3	3		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	16	1				
保護者 への 説明等	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	14	3				
	17 事業所の職員から積極的に支援をされていると思いますか。	17					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が取られるなど、家庭への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が取られるなど、きょうだいの支援がされていますか。	13	1	3		・今年はいるいるあって参加できなくて もいいな、次は参加できたらいいなと 思っていてきました。 ・参加したことないが定期的に開催され ているのは知っている。	保護者会は年1回行っているが、きょう だい支援はできていない。きょうだいの 参加できるようなイベントも検討してい きたい

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		公表日		7年 2月 12日	
デイケア・コミュニケーション・デット					
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	2	1	時折危険を感じる場面があった（その日未所持する子の医療機器を置くスペースの確保が難しい等）児童発達支援・生活介護と協力して安全にできるようスペースを確保している。優先順位や事前の段取りなどを考慮して充分なサービス提供に努めている	基準以上の広さではあるが、人工呼吸器や吸引器のスペースが必要で、少し移動ができる子かに利用の場合は、医療機器の置き場所について注意が必要になる。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		3		足りる時とそうでないときがある職員が足りていない引き続き求人を出していく
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3			
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3			
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	1	2		
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	2	1		
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3			
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	1	2		意見を言える職員と言えない職員がいる年2回職員全員と面談し、意見や要望をきいていく
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	1		第三者評価を来年度は検討する
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	3			
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3			
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等サービス計画を作成しているか。	3			
	13 放課後等サービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3			
	14 放課後等サービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	1	2		実施の徹底がなかなか難しい。今後更なる工夫が必要と考えている どちらとも言えないときがある
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察などを含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3			
適切な支援の提供	16 放課後等サービス計画には、放課後等サービススタッフらの「放課後等サービスへの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3			
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3			
18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3				

供				
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	3		
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	2	1	なるべくそのようにできるよう取り組んでいる
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	1	“必ず”ではないが機会をとらえて共有するよう努めている。今後その内容をどのように周知し継続的なものにしていくかが課題と思っている
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3		
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3		
24	放課後等デイサービスカイトラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	2	1	地域社会との交流はまだあまり行っていない
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	3		
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3		
27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2	1	退院時は情報提供書をいただくようにしている 必要時主治医と連携している
28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	2	1	校内での様子を把握できていない
29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	1	個別支援計画を共有している
30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	1	要請を受けたことがない 不明
31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	1	
32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		3	公園等で交流する程度
33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3		
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	2		
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		1	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	2		
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	2		
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	2		
39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	2		面談内容を共有している

関係機関や保護者との連携

保護者への説明等					
40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		2	保護者会は開催されている	保護者会は年1回開催 きょうだい同士の交流は行っていない
41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備することとに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	2			
42	定期的に通信等を行うことや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	2			
43	個人情報情報の取扱いに十分留意しているか。	2			
44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	2			
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2		昨半夏に夏祭りを開催し、地域の方にも呼び掛けた。 府中福祉祭りとwaivaiフェスティバルに参加した	
46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2			
47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	2			
48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	2			
49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づき対応がされているか。		1		食事の提供は行っていない 指示書に記入されているアレルギーはない ご家族からアレルギー検査の結果を受け取っている
50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	2			
51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	1	1		
52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。		2		ヒヤリハットは積極的に記入してもらい共有している
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	2	1		見えていない部分があり難しい 年1回の職員研修と、虐待防止委員会を年1回行っている
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	3			

非常時等の対応